

健診にオートタキシンは有用か

◎小池 真理子¹⁾、藤原 春奈¹⁾、前川 みな美¹⁾、代永 久美子¹⁾、天野 陽生¹⁾、浦田 香代美¹⁾
独立行政法人 地域医療機能推進機構 山梨病院¹⁾

【はじめに】近年、非B非C型肝硬変、肝癌の増加の成因として、非アルコール性肝疾患（以下NAFLD）が注目されているが、適切な診断マーカーがないため進行した状態で発見されることも多い。今回当院健康管理センターにおいて新規肝線維化マーカーであるオートタキシン（以下、ATX）を導入し、有用性について検討したので報告する。

【対象・方法】2020年10月より2021年6月までの当院健康管理センター受診者のうち、腹部超音波検査を施行し、加えてATXを測定した117例を対象とした。調査内容は以下の通りである。①NAFLD/NASH診療ガイドラインに基づきFIB-4indexを用いて肝線維化が疑われる症例の割合を算出。②ATXとFIB-4indexの関連性。③ATX、FIB-4indexと年齢、脂肪肝の程度、アルコール摂取量との関連性。ATXは、AIA-2400（東ソー株式会社）にて測定した。

【結果】平均年齢53.5歳、年齢構成は60歳未満が76.9%であった。男性は79例、女性は38例、ATXの平均値は男性0.563、女性0.742であった。FIB-4indexの平均値は1.17であった。ATXが基準値を超えた症例はなかった。①腹部超音波

検査で脂肪肝を認めた症例は50例（42.0%）であった。脂肪肝症例のうち肝線維化が疑われ専門医への受診が勧められるFIB-4index \geq 1.3の症例は14例（28.0%）、高度の肝線維化が疑われるFIB-4index \geq 2.67の症例は3例（6.0%）であった。②ATXとFIB-4indexの相関係数は0.249であり、弱い正の相関が認められた。③女性のATXと年齢の相関係数は、0.538であり正の相関が認められた。FIB-4indexと年齢の相関係数は男性で0.650、女性で0.682であり、ともに正の相関が認められた。ATX、FIB-4indexに脂肪肝の程度、アルコール摂取量との関連性は認められなかった。

【まとめ】肝線維化が疑われる症例をガイドラインに沿って絞り込むと脂肪肝症例の約30%を占めた。FIB-4indexには年齢が影響するが、FIB-4indexと正の相関があり、年齢に影響されにくいATXを組み合わせることで、よりの確な絞り込みができる可能性があると考えられる。またATXは肝線維化早期から上昇し、さらに肝線維化に特異的であるとの報告から、非B非C型肝硬変、肝癌の早期発見に有用であると考えられる。連絡先 055-252-8831（内線 1111）